日米安保条約と駐留米軍（2）

練馬区　板橋光紀

－5月号（1）からの続きです－

「日本周辺で何か”有事”が発生するとすればそれはどこか？」という問に「朝鮮半島」と答える日本人は多い。私は数年前から中国の軍関係者や中国へ越境した北朝鮮人達から若干情報を得ていたこともあり、不安定には違いないだろうが、日本が武器をとって身構えなければならない程「有事」の発生する可能性は無いと見ている。

この稿を書く為にわざわざ出掛けたわけではないが、昨年家族旅行でソウルへ遊びに行った時、韓国の友人が四輪駆動車で案内してくれるとのことで、板門店を皮切りに38度線の南に展開している16ケ国からなる国連軍の基地を見物して廻ったことがある。たまたま北朝鮮の小型潜水艦が韓国領の東海岸で座礁し、20名程の乗組員の捕物さわぎがあった直後だけに、各街道筋等を警戒する韓国軍の詰所はいずれも緊張してはいたが、国連軍の基地はどの国も意外とのんびりしていて、15ケ国の基地はいずれも「参加することに意義がある」かの様な雰囲気であった。アメリカだけは違っていたが。16ケ国はそれぞれ独立した基地を構えており何れの基地でも国連旗と自国の国旗を高々と掲げ、38度線での「存在」を表現してはいるものの、緊迫感は感ぜられない。そして各々お国柄が出ていて面白い。16ケ国の陣立ては50年前の朝鮮戦争に於ける北朝鮮軍の南進ルートから得た教訓に基ずいて配列が決められたものであらうが、いくつかの興味深い点を挙げることが出来る。

先ず北朝鮮との国境に最も近い最前線にあまり強そうに見えないタイの基地が置かれているのは理解に苦しむ。最左翼、仁川港近くの西海岸の守備にアンデスの山国から出てきたコロンビアが担当しているのも不可解だ。板門店のすぐ南側、50年前に北の主力がなだれ込んで来たメインストリートに国連軍最大のアメリカとイギリスが並んでいるのは当然かも知れないが、その直ぐ南に国連軍とは別にアメリカの海兵隊が「韓米相互防衛条約」に基づいて韓国海兵隊と同居した大きな海兵隊基地があるからややこしい。此の点に就いては後で詳述する。中央は険しい山岳地帯だが、谷に添ってルクセンブルグ、ノルウエー、ベルギーが縦に並んでいる。右翼がニュージーランド、オーストラリア、カナダがかたまっており、何故か最右翼の江原道でオランダがポツンと一国だけ離れている。

ソウル市の街中にフランス、首都圏を取り巻くようにフリッピン、南アフリカ、そして犬猿の仲である筈のトルコとギリシャが仲良く並んでいる。ちょうど鶴が羽を広げたような、鶴翼の陣形がこれであろう。典型的な守りの隊形である。

特筆すべきことは、アングロサクソンの７ケ国が全員集合していること。ヨーロッパとオセアニア勢の基地はいずれも広い庭には一面に芝が植えられ、立木の手入れも行き届いて、鳩山御殿を連想させるような冷暖房付き永久構築の洋館、この先更に50年居ろと云われても居住環境としては問題なさそうだ。

アメリカは将兵の数が多いのと、ここ以外の韓国内各地に多くの基地があるせいだろうか、日本の横須賀や立川あたりで見かける安普請の実用一点張り。これらの外国勢以外に韓国軍の大小の要塞や衛所が全土に張りめぐらされているのは云うまでもない。

私はこれらを見て廻った後、「北朝鮮は南進は出来ない」と思った。強いてソウルを攻め落とすとすれば、最前線の韓国軍を撃ち破った後その5-10kmの地点に基地をかまえる16ケ国を踏み倒して進まなければならないからだ。仮にそれが出来たとしてもこれらの16ケ国だけでなく、ほぼ全世界を敵に廻して、より厳しい経済制裁を受けることから始まり、多分核を用いる空爆を含めた集中攻撃を浴びて数日で壊滅することになるだろうからだ。この見方はこの時にインタビューを申しいれたノルウェィとカナダの武官から聞いた見解などとも一致している。同時に国連によるＰＫＯの効果の絶大さを再認識した次第である。

韓国と北朝鮮の間では50年前に「休戦」が成っている。しかし今だに「終戦」が確認し合えた訳ではなく、つまり両国では準戦時態勢であることに変わりはない。戦争が始まって間もなく、アメリカを先頭に16ケ国からなる国連軍が馳せ参じて北朝鮮軍を押し返し、ここ38度線を境界として休戦が合意に到ったのは云うまでもない、休戦が成るや、16ケ国の国連軍将兵はあらかた各々の国へ帰国した。

その後各国の基地に残留しているのは数名の武官と数名の背広姿の外交官それに10名程の警備兵とから成る、一国平均20名程度で、基地の看板はいずれも「ＲＥＰＲＥＳＥＮＴＡＴＩＶＥ　ＯＦＦＩＣＥ」に変えられている。「国連軍＊＊国代表部」と云ったところであろうか。アメリカは戦争当時50万人を派兵したと云われるが、休戦以来除除に減らして来て、今でも35,000人が韓国各地に駐留している。

ノルウエーの武官に依ると、「半世紀にわたって国連軍16ケ国が駐留していることと、特にアメリカ軍の35,000人が頑張っていることにより北の侵攻を牽制する役割を果して来たことは確かだろうが、10年前にソ連が崩壊して、中国が韓国と國交を正常化、事実上社会主義をかなぐり捨てようとしている今の時代に、ロシア又は中国が北朝鮮の後押しをして戦争を再発させることなどあり得ない。僅かばかり残っていた「代理戦争」再発の可能性は100年前に完全に消えたと云えよう。

問題があるとすれば北朝鮮つまり金正日が何か変な企画を発想しないかどうかだ。もし彼とその取り巻きが危険な行動に出たとすれば、彼らは間もなく破滅するだろうが、気の毒なのは北朝鮮の一般市民である。我々は軍事力で問題を解決する道をとれば、こんな山奥で50年も頑張って来た意味が無くなる。

親子二代で駐留の経験のある軍人も居る位いだ。何とか穏便な方法で解決すべく今後も辛抱強くやっていくよ。アメリカが強大な軍事力で威嚇したり、日本がそれに追従して”後方支援”だとか”船舶を臨検””有事法制””防衛庁を省に格上げ”など50年前の米中代理戦争を想定しているかのような古典的というか、誇大妄想みたいな動きが、かい間見えるが、正直言って迷惑している。ここに駐留している15ケ国はアメリカの過激な行動を制禦する働きも生み出していると思う」との事だった。（続く）